



富山県

ブドウ「あづましずく」の結果枝の環状はく皮処理による着色向上技術 富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター

1. 背景とねらい

黒色系ブドウ「あづましずく」は令和4年度に本県の普及に移す品種として公表され、令和5年度に試作品種に選定された。しかし本品種は本県では成熟期の高温により果皮色がやや淡い紫黒色となり、着色の向上が課題であった。そこで、本県が令和3年度に普及に移す技術として公表した赤色系ブドウ「安芸クイーン」の結果枝への環状はく皮処理による着色向上技術が、本品種の着色向上にも有効であるか検証した。

2. 成果の内容

- ・「あづましずく」において、満開後30日頃に結果枝基部側に環状はく皮処理を行うと、果皮の着色が向上し、糖度も上昇する(表、図1)。
- ・環状はく皮処理はプライヤ(幅8.5mm)を使用し、結果枝の着房位置から基部側の最も近い節間をプライヤで挟み、師管部をはくように結果枝を一周させて処理する(図2)。環状はく皮した部分はビニールテープ等で保護する必要はない(図3)。
- ・環状はく皮処理部分は周囲にカルスが発達し癒合するため、結果枝が枯死することはない(図3)。また、樹体衰弱等の影響もみられない。
- ・環状はく皮処理は結果枝の基部から4~5節の位置で行うため、せん定(1~2芽を残して切除)により、はく皮部分はせん除され、通常通り翌年には結果母枝や芽座が確保できる。剥ぐ

表 ブドウ「あづましずく」の結果枝の環状はく皮処理が果実品質に及ぼす影響(2023年)

区 ²	果房重 (g)	果粒数 (粒/房)	1粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100mL)	果皮色 ^y (CC)	無核率 (%)	裂果率 (%)
処理区	426.8	29.8	14.6	18.4	0.51	8.3	100.0	1.3
無処理区	462.4	30.0	16.0	16.7	0.51	6.5	100.0	2.0
有意差 ^x	n. s.	n. s.	n. s.	*	n. s.	***	n. s.	n. s.

²: 処理区は満開後31日に環状はく皮処理を実施した。

^y: 農林水産省果樹試験場作成カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)を使用。

^x: t-検定により*5%、***0.1%水準で有意差有り。n. s. 有意差無し。なお糖度、酸度、無核率及び裂果率については逆正弦変換後に検定した。



図1 「あづましずく」収穫期の果房
(満開74日後、8月8日撮影)
(左:処理区、右:無処理区)



図2 プライヤによる結果枝の環状はく皮処理の様子(「安芸クイーン」での様子)



図3 結果枝の環状はく皮処理部分の様子
(上段:処理直後、下段:処理6週間後)



図4 農林水産省果樹試験場作成
カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)

3. 成果の活用・留意点

- ・着色不良が問題となっている「あづましずく」に対して活用できる。
- ・本試験では、全長160mm、開口部直径最小9.0mm、幅8.5mmのコンビネーションプライヤを使用した。
- ・本試験は例年着色不良が発生している雨よけハウス地植え短梢栽培1本主枝仕立ての「あづましずく」(8年生)1樹の主幹付近の強勢な結果枝(処理時の基部径15mm以上、長さ2m以上)を供試して得られた成果である。
- ・本試験は平年より高温条件下(気象庁アメダスデータ(地点:魚津市(果樹研究センター))の月平均最高気温の平年差は6月+1.5℃、7月+2.4℃、8月+3.8℃)で得られた成果である。
- ・果実品質は8月10日に一斉収穫した果実から得られたデータである。果皮色については、農林水産省果樹試験場作成カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)(図4)を用いて評価した。